

連続学習会 SPECIAL

今中哲二さん講演会

京大原子炉実験所助教



チェルノブイリ原発事故の被害の実態を幾度にも渡る現地調査を元に明らかにし続け、著書に『チェルノブイリ事故による放射能災害』『チェルノブイリ10年一大惨事がもたらしたものー』『「チェルノブイリ」を見つめ直す—20年後のメッセージ』等がある。

今回の福島の事故直後、いち早く汚染地帯に飛び込み、飯舘村で毎時30マイクロシーベルトの放射線を観測した。そして、ある講演でこう言っている。

『私は、原子力発電はやめた方がいいと言ってきたんですけども、原子力反対ですってあんまり言わないことにしていたんです。ただ原子力は胡散臭い（ウサンクサイ）とずっと言ってきた。だから原子力をやるんだったら、東京湾に原発を作りなさいと。それだったら私は表向き知らん顔をしてもいいよ、という感じだったんだけど、今回の福島の事故を見てもうだめだと思った。』

放射能汚染に向き合う時代 －チェルノブイリ26年、福島1年－

放射能でふるさとを追われた人々の悲しみや怒りは、サイエンスですくい上げることはできない。これから長く続く放射能汚染との闘いの時代をどのように生きていくべきか。

(主催) さよなら島根原発ネットワーク
(代表連絡先 0859-33-6475)

さよなら島根原発ネットワーク



とき：2月11日(土) 午後2時より

500円
資料代

ところ：日本海ふれあいホール [駐車場あり]

(新日本海新聞社西部本社：米子市両三柳 3060)